**第２回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会記録《要旨》**

○日時　　平成２６年７月１４日（月）　１０：００～１２：００

○場所　　メルパルク大阪　５階　ル・マノワール

（大阪市淀川区宮原４－２－１）

○議題　（１）部会からの報告について

（２）「太陽の塔」内部公開について

（３）将来ビジョンについて

（４）今後のスケジュールについて

○出席委員等　　更家会長、石川委員、篠﨑委員、中谷委員、橋爪専門委員

○事務局　　府民文化部長　ほか

**【開会】**

＜審議会規則第５条第２項の規定により、会議の成立を報告＞

＜府民文化部長挨拶＞

　　＜ゲストスピーカー　堺屋太一氏　からのご意見＞

**【議事】**

＜資料説明　資料３、４＞

**更家会長**

５月２２日の第１回部会では、「太陽の塔」内部展示について、展示室増設という　　　　フルスペックで実施していただきたいという結論に至った。この部会には、橋爪専門委員　にもご出席いただいたので、しっかり審議できたと思う。ただし、入場料の設定など、　　　さらに検討していただきたいということになった。

寄附金募集については、事務局でクラウドファンディングを検討することとした。

公園運営のあり方については、私は一番重要であると認識しているが、もう少し委員の　皆さんのご意見を伺いながら検討させていただきたいと考えている。

以上、兼任している魅力創出部会部会長として報告させていただく。

**石川委員**

第１回緑整備部会について、補足説明させていただく。

万博公園は、大変立派な森が育っているが、当時（昭和４０年代後半）の考え方で、　　　　広葉樹林の密植としたため、人が入りにくい森になっている。森というストックを　　　　これからどう活用していくのか。これが非常に大きな課題。

例えば、パリの万博公園は、セーヌ川に向かって開くという明確な方針に基づいている。都市の肺としてブーローニュ、ヴァンセンヌという立派な森がある。ニューヨークは　　　セントラルパークがあってのもの。ロンドンにも万国博覧会跡地には魅力的なパークがあり、都市の基盤となっている。

大阪はすでに万博公園という財産を持っている。これは本当に素晴らしいこと。その中で、万博公園の今後の目標をしっかりと定めることが重要というのが、部会としての意見　　　であった。

**更家会長**

両部会の議事内容についてお諮りするが、信認ということでよろしいか。

（異議なし）

**更家会長**

本日は「太陽の塔」の内部公開に関する審議を行うため、橋爪専門委員にお越し　　　　　いただいた。

まず、事務局から説明していただき、橋爪専門委員にコメントいただきたい。

＜資料説明　資料５＞

**橋爪専門委員**

「案３」がミニマム。耐震補強は行うが、塔の内部に入った方は「生命の樹」を上から　　　見ることができず、下から見るだけとなる。これでも工事費は７億円もかかる。これは　　　魅力が一切ない。

展示室の展示を見ることで「太陽の塔」の意味をご理解いただき、「生命の樹」を　　　　　上からも見ていただくことを考えると、私は８億円の「案２」、９億円の「案１」でも　　　　　十分とは思えない。しかし、原案の中では「案１」がよいと考える。

**更家会長**

魅力創出部会長を兼任している私としても、橋爪専門委員のご意見もあり、今できる限りのフルスペックである「案１」ということで、部会では議論させていただいた。

「案１」で早急に工事に取りかかっていただき、府民国民の皆さんに見ていただく。　　　ただし、入場料金、他の施設との連携、グッズの販売、寄附金募集などについては、さらに議論を行うという方向性で、本日はご審議いただきたい。

**橋爪専門委員**

「太陽の塔」は、もともと半年間の博覧会のあと解体すべきだった仮設の建築物。それが４０数年間ここに残り、また、５０周年を経て、今後も残り続けるためにいくら投資する　　のかという話だと思っている。

また、万博公園周辺は平成７年の阪神大震災の時によく揺れたと聞いている。耐震補強は確実にやるべきだと思う。

**更家会長**

万博公園というと、必ず「太陽の塔」が出てくる。「太陽の塔」はシンボル化している。

**堺屋ゲストスピーカー**

「太陽の塔」は一度修理をしたと聞いているが、阪神大震災の前だったので十分な耐震　補強ができていないかもしれない。

内部展示物について、大阪万博当時のものをそのまま保存するのがよいのか、新しく追加するのがよいのか。大阪万博当時は、天井、屋根の上に相当の展示物があって、一体化していたが、現在、大屋根は撤去されている。

川崎市の岡本太郎美術館は、相当な収益をあげているらしい。それに比べて、万博公園は、商売っ気がない。何か名物化することを考えて、ただの保存ではなく、発展性も含めて　　　考えていただきたい。

**更家会長**

現状では、皆さんのコンセンサスは、フルスペックである「案１」を採用し、展示方法や入場料金などはさらに検討を進める。そのような方向感の中で決を採りたい。

**石川委員**

「太陽の塔」も「生命の樹」も素晴らしい。資料にはスケールが記載されているが、お話にならないくらい狭い空間。大阪万博当時としてはよかったのかもしれないが、こんな狭いところにトイレや事務室を整備するというのはいかがなものか。

**更家会長**

事務局としてはいかがか。「トイレと事務室は、とりあえず外しておけばどうか」というご意見であるが。

**事務局**

展示室での展示だけで不十分であれば、EXPO’70パビリオンと連携した展示手法も　　　考えられる。

**石川委員**

大阪万博の時のように元通りに復元するという案だと思って聞いていた。そうではないということなので、シンボルとして保存するという方針は了解するが、今日風な展示や来場者へのサービス提供などの議論とセットにしなければならないのではないか。

**更家会長**

いつ地震が起こるかもしれない。耐震補強の必要性もあるので、まずは、工事を実施　　　すべきということ。

**堺屋ゲストスピーカー**

耐震補強と、トイレや事務室を塔の中に入れるか、横に別途建てるかというのは、全く　　別の話。トイレや事務室の部分も展示スペースにして新しい発展性のある展示をすれば　　どうかということ。

**事務局**

「太陽の塔」本体の芸術性もあるので、トイレや事務室を塔の外へ横付けする形で設置　することはふさわしくないと考える。

現在は地下展示部分が撤去されているので、それに替わる「太陽の塔」へのアプローチが必要。いきなり塔の中に入っていくのはいかがなものか。いきさつ、歴史のようなものを　　感じ取る空間を設けるべきということで、展示スペースの確保は重要であると考えている。

**更家会長**

しかし、今のお話では、展示内容を現代風にすることも含めて充実することが、魅力創出につながるのではないかと。逆のご意見をいただいて、私は誠にそのとおりだと思っている。

トイレをどこに設置するのかという議論もあるが、設備を造る時には柔軟性があった方がよい。

**更家会長**

事務局において、もう少し検討していただきたい。

展示場所を充実して、入場者に「太陽の塔」のいきさつなどとあわせて連続して　　　　「生命の樹」を見ていただくというのが本旨。トイレや事務室を塔内部に設置する必要が　あるのか。私は必要ないと考える。

**石川委員**

万博公園は、明らかにトイレが少ない。

**事務局**

トイレの整備は必要なものと認識している。企画展示については、大阪万博当時の　　　「太陽の塔」の展示を復元するという趣旨で見ていただくが、必要に応じて現代風に　　　アレンジしていくことも可能。

**橋爪専門委員**

「太陽の塔」の中は当時のものであるが、展示室のところは、現代的な手法でという　　　原案…。

**更家会長**

それがないと文化にならない。歴史遺産ばかり見ていては文化性がない。モダンな　　　ところや、未来を見通したような展示は多少なりとも必要。

**更家会長**

資料５の「案１」に書かれている「最下層に展示室、事務室、ＷＣ等を増設」という部分は、再検討していただきたい。どうしても必要であれば、もう一度審議する。

本日は、附帯意見付きで審議。石川委員からもご意見があったので、このような形に　　　させていただくがよろしいか。橋爪専門委員、いかがか。

**橋爪専門委員**

結構です。

**更家会長**

附帯意見付き了解ということでよろしいか。

（異議なし）

**更家会長**

では、「附帯意見付き案１」という形で決定させていただく。次に、将来ビジョンに　　　　ついて事務局から説明をお願いする。

　　＜資料説明　資料６＞

**更家会長**

皆さんには事前に資料にお目通しをいただき、堺屋先生からのご意見もうかがったところであるが、特に理念や内容について、目線を上げるということ。それが、ビジョンの具体的な表現の中で担保されているか、確認が必要。

先日の魅力創出部会で小泉専門委員がおっしゃっていたように、阪大サイドに入口を　　設けて公園に入りやすくするとか、先ほどのトイレの整備など、具体的なご意見を　　　　いただいている。整合性がとれた形とすることも必要。

また、私としては、ガバナンスが一番大事であると認識。運営組織については、いろいろご意見があるかと思うが、しっかりと理念を理解して実行力がある形で実現していくという運営組織がいかにあるべきか、大きなテーマであると考える。

**石川委員**

目線の高さは、議論すべき課題。基本理念「進歩と調和を具現化できる公園」を本日は　　深く掘り下げていくべき。堺屋先生のお話の中には「名所」という言葉が出てきたが、　　　ここが議論の焦点。

万国博覧会第１号のハイド・パークでは、単体としての名所ではなく、石やレンガの建築からガラスの建築への移行を示し、その後の都市づくりに大きなインパクトを与えた。

パリでは、セーヌ川に向かってパリを開いていくという、パリの基本的な都市改造の方針に受け継がれている。

シカゴは、今も残るパークシステム。シティー・ビューティフル・ムーブメントという　　都市美運動につながっていて、文化に対する大きなメッセージというものを内包してきた。それが名所であると考える。

大阪は「太陽の塔」と海のように広がるすばらしい緑を持っている。「太陽の塔」は人間の創造、緑は基盤。この２つを強力にアピールして「進歩と調和」だけではなく、人間性の回復という目線があるとよいと思う。

**橋爪専門委員**

基本的には、万博公園は堺屋先生がおっしゃっておられるように国際的な名所にする。

高速道路や幹線道路が交わっているところで、伊丹空港にほど近く、交通アクセスに　　恵まれた絶好の場所に万博公園はあるにもかかわらず、名所になっていないというところは、もう一度考えるべき。一方で、桜まつりのときなど、周辺道路ではすさまじい渋滞が発生　　している。

２０２０年を目途ではなく、次の５０年に向けて我々はどうするのかという大きな考え　のもとに進めていくべき。目線の高さは「世界」のなかで、いかに評価されているのかと　　いう点に置くべきだ。時間軸の中で２２世紀に向けて考えるべき。

**篠﨑委員**

素晴らしい大阪万博があった場所。目線高く、志高く、大阪の宝といわず、日本の宝と　　して、素晴らしい公園として維持していくためにはどうしたらよいのか。「進歩と調和」という大阪万博の理念、それを空間に体現したのがこの公園だと考える。

万博公園は、千里ニュータウンというベットタウンの真ん中で、高度に人工化した環境を　大阪万博の後自然に戻すという壮大なチャレンジをした場所。まさしく、都市の人為的な　環境と自然との調和を体現したのではないか。

そういう意味で造りだしてきた緑について、維持しながらたくさんの人に見ていただけるのかが課題。近隣の人しか利用されていないとことについては、てこ入れが必要。

進歩と調和を具現化した壮大なチャレンジの場であるということを大事にして、２２世紀に向かってどうあるべきかを議論すべき。

維持管理については、他の府の公園とどう切り分けて維持するのかというしくみが必要　ではないかと感じている。

**中谷委員**

目的感を共有していかなければ、あれもこれもということになる恐れがある。

大阪は新しいものをつくってきたという歴史がある。各地のまねをする必要はない。　　新しさがないと名所にもならない。これまで培ってきた「太陽の塔」の理念や、過去、現在、　　　未来の意味など、この先ビジョンをこういう状態に持っていかなければならないということを基本理念の中で共有できれば、何をすべきかということが、もう少し見えてくるのでは　ないか。

**堺屋ゲストスピーカー**

大阪万博から２０世紀の間に、いろいろと夢見たこと、博覧会を開いて大阪にこういう　名所を作りたいと夢見たことを実現してもらいたい。

それは、何よりも遠くからでも喜んで来る人がいるということ。万博公園は遠くから来る人がどんどん減っている。非常に残念なことで、今や、あらゆる観光案内に万博公園は　　　ほとんど掲載されていない。大阪の航空会社の機内誌に、２０世紀のうちは大阪のシンボルとして「太陽の塔」が掲載されていたものもあったが、今では全部通天閣になった。

東京で高校生に聞くと「大阪の一番の中心は通天閣で間違いありませんよ」と言われる　ので辟易している。

万博公園こそ、ひとつでもふたつでもよいから、５年間、１０年間の大計画を立てて、　　日本の名所、アジアの名所、世界の名所を作ることができないものだろうか。大阪万博が　　終わった頃にいろいろな提案が出たが、担当者みんなが「そんなしんどいことを」と言って実現できなかった。

私が一番興味を持っているのは「太陽の塔」からのシンボルゾーン。ここを、大名所に　　したい。芸術、文化の行事を行う大シンボルにしたい。

民芸館は、全然活きていない。入館者数は１年間で７千人。１日あたり２０人しかいない。民芸館の内容について、古い民芸理念にこだわる必要があるのかと思う。

緑についても、どれだけの人が緑を見ているのか。これも少ない。日本庭園も全然有名にならない。府民に利用されていない。それは評価されていないということ。万博公園は　　　交通の便利なところにあるのだから、せめて島根県の足立美術館入場者数の１０分の１は　来て欲しい。ところが、そういう意識が全くない。もっと儲けることを考えるべき。　　　　日本庭園の中には喫茶店があるが誰も入っていない。稼ぐことは悪いことではない。利用　されるということなのだから。

シンボルゾーンでも、世界の名物になるという意識を持ってやっていただきたい。責任のある人に運営を任せて、成功したらその人の名誉、失敗したらダメージというような　　　仕掛けで、やってもらいたい。

私達が大阪万博用地を買収するのにどれだけ苦労したか。それをこんなに恥ずかしい状態にされているのは、誠に残念。ぜひ、儲かるように、人が来るように、有名になるように　　　という目標を掲げて、４０年前に決めたコンセプトを見直してやっていただきたい。

また、万博公園は国際的にも軽視されている。「太陽の塔」の中にトイレを作るなんて　　ことは、非常に変な話。この狭いところになぜトイレを作るのか。不思議に思わないのは　　おかしい。

常識に戻っていただいて、普通の感覚で、国際的名物にして、府民のために役立つようにもう一度考え直していただきたい。「太陽の塔」の中でトイレも事務室も完結しなければ　　ならないことはない。５年後１０年後には、日本の名所になるんだという誇りを持って、　　やっていただきたい。

**更家会長**

続いて、皆さんから交通についてご意見をいただきたい。

**堺屋ゲストスピーカー**

モノレールを利用する来園者の割合は、どれくらいなのか。

**事務局**

約２割。

**更家会長**

イベント開催については、周辺住民との協定があって、回数に制限があると聞いているが。

**堺屋ゲストスピーカー**

私の住んでいるところは、国立競技場のすぐ隣で、頻繁に音楽イベントが開催されている。当初は住民の反対があったが、最近は大歓迎で住民の方がもっとやれと言っている。

土地の値段もどんどん上がりマンション建設も相次いだ。にぎやかなことを喜ぶ住民に　入れ替わったということ。そういう地域だと認識してもらうことが大事。最近は防音設備もよくなっている。

これは、皆さんに納得してもらうことを考えなければならない。経済的なこと、住民の　　支持ということを考えなければならない。少数の人の意見を聞いて、多数の人の意見を無視することはよくない。

**更家会長**

運営組織について、ご意見をいただきたい。

**橋爪専門委員**

事業を展開して、財源を自由に確保できる組織にしなければならないのではないかと　　考える。

**堺屋ゲストスピーカー**

万博機構が独立行政法人に移行したときの理事長が、私の兄だった。兄は、独法は　　　　やりにくかったと言っていた。私が思うのは、指定管理者に入場者目標をしっかり持たせること。入場者数１，０００万人。これが第一の必達事項。

次に、世界的にどれだけ有名になれるか、この基準を与える。１０年以内で日本の観光　　案内、旅行案内のすべての地図に万博公園が掲載されるようにする。

その次に、情報発信の回数を与える。ＣＭ収録が何回行われるか、海外取材が何回　　　　行われるか。

商業主義に陥るのではないかと思う人がいるが、商業主義に陥ったら絶対に人は来ない。絶対に有名にならない。絶対にＣＭに使われない。

緑にしても、府民が喜んでくれる緑ができれば、多くの人に来ていただける。お金を　　　払ってまで来てもらえる所は、ええ所。指定管理者に入場者数と収入と知名度のアップ目標だけを与えて、１０年間くらいの期間でやらせてみるのがよいと思う。

**石川委員**

緑に関しては、昔、ニューヨークのセントラルパークは、殺人事件が起こるほど荒れて　　いたが、ニューヨーク市はエリザベス・バーロー・ロジャース氏を公園管理責任者に任命し、荒廃の危機から、世界に冠たる公園へ再生を成し遂げた。彼女は、草の根の市民活動を　　　とり入れて、多くの人が協力して公園を良くしていく手法を取り入れた。たくさんの人が　ニューヨークの恥とまで言われた公園の再生に参画した。お金をかけなくても、たくさんの人がここに来てくれるということが大事。大衆を信じるという草の根的なものと、目線が　高い超一流のものとのダブル構造を際立たせることがよいのではないか。

セントラルパークの場合は、基盤整備は行政が行うが、運営は組織を作って、誰もが　　　スタッフ登録し参画することができる状態になっている。

**更家会長**

様々な運営形態が考えられるが、中心になる人が座りやすくなるような組織が必要。

**橋爪専門委員**

万博公園は、都市公園ではない特殊な公園。

２層になっていて、全体が大阪万博跡地の公園で、中に有料エリアの公園がある。今回のスキームは、公園の外側で収益をあげて公園全体を維持するという考え方。新しいタイプのパークマネジメントであるが、ビジョンにきっちり出てきていない。明確にすべき。

シドニーのオペラハウスは、１９７３年に竣工して２００７年には世界遺産に登録された。３０年少しで文化財になった。日本では竣工後、５０年が経過すると登録文化財に指定　　される対象となる。２０２０年に「太陽の塔」は、登録文化財や重要文化財など、なんらかの文化財として指定を受ける段階。

そのあたりの考え方がビジョンに出てきていない。最後の別表のところで、２０２０年を意識したものを書き込んでいただきたい。

**更家会長**

中間答申の前に、全員参加で将来ビジョンを重点的に議論する場を設けることはいかがか。

ビジョンは府議会に提出する書類なので、重点議論する場を設けて、参考意見を　　　　いただける方も参加し、文言も含めて、高い目線と具体的な行動指針がきちんと整理されたものにする必要がある。

合同部会でも結構だが、そこで作ったものを委員の皆さんに見ていただくような手続きを採らせていただきたい。

**事務局**

７月３０日の魅力創出部会、８月１２日の緑整備部会で、ご審議いただきたいと考えて　いる。

**堺屋ゲストスピーカー**

ここで、部会にばらしてしまうと、全体の議論がおろそかにならないか。

**事務局**

全体でご審議いただくのは、８月２６日の審議会でと考えている。

**堺屋ゲストスピーカー**

全体のビジョンの議論をまとめていただいてから、部会で議論にした方がよいのではないか。本日の議論のまま部会に下ろすと、バラバラになる気がする。

**更家会長**

時間がないので、各論と全体論を並行して進めたい。本日の議論を踏まえて表現が　　　行き届くように、どこかで重点的に審議させていただきたい。

続いて、次の議事「今後のスケジュールについて」を事務局から説明していただきたい。

　　＜資料説明　資料７＞

**堺屋ゲストスピーカー**

今日の審議会の意見が、今後の部会にどれだけ反映されるのか、とても気になる。次の　　部会に出される資料がどのようなものか、見せていただきたい。第３回審議会の開催日を　両部会の前にずらせばいかがか。

時間がないからといって、委員の意見がほとんど反映されずに、どんどん進められいく　というのが、役所の審議会のやり方、流儀。

**石川委員**

基本理念をもっと深堀りすべき。

「進歩と調和を具現化できる公園」とされているが、すでに具現化してきた。堺屋先生がおやりになった時は具現化しようという時期だったが、既に森を造って具現化した。私は、創造という言葉を入れるべきだと思う。進歩と調和と創造。

今までしっかりと造ってきたが、うまく活用されていない。でも、これからもっとうまく造っていきます、というメッセージが出るとよいのではないか。

それと、この基本理念を受け継いで、どういうビジョンにするのか、絵柄が全然ない。　　文章だけ。それが最大の問題。

私は、最初の審議会で、今の考え方はゾーニングという昔は流行った考え方。ゾーニングというのは「ベッカーズ・バンケット」。ゾーニングの考え方を捨てない限り、新しい再生はできないということを申し上げた。

「ベッカーズ・バンケット」をきれいさっぱり捨てなくてはならない。その考え方が、　　ビジョンに出ていない。また、シンボルゾーンを全体の中で位置づけて「ベッカーズ・バンケット」にしないか。

皇居、武蔵野の森、明治神宮、浜離宮恩賜庭園も「ベッカーズ・バンケット」ではない。そのあたりの二つの大事なところが出ていない。

**更家会長**

橋爪先生、石川先生、堺屋先生で起草委員会的なものを作り、そこに私もできるだけ　　　参加するので、事務局も入っていただいて、文章を検討し、それを部会に出すというのは　　いかがか。全体で部会や審議会を開催することはできないので。

**石川委員**

７月３０日の魅力創出部会に私も参加することは可能。そうすれば、合同部会のような　形になる。

**篠﨑委員**

管理組織面に関しても、今の制度だけで論じている。しかし、５０年後を考えたときに、その頃には恐らく公的なものが縮小していって、民の役割が非常に大きくなっていると思う。

ここから新しいやり方を提案していくような、そういうマネジメントを提案できることが必要ではないか。

**更家会長**

目的に対して、最大限持続可能な運営組織が必要だということ。

本日は「ベッカーズ・バンケット」という言葉が出たが、これにならないように文章を　　検討していただきたい。魅力創出部会の開催が別途必要であれば調整するので、７月３０日はできるだけ起草的な議論をさせていただきたい。

以上で本日の議事を終了させていただく。

以　　上